

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 11 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200079		
法人名	社会福祉法人みどり会		
事業所名	グループホーム府中みどり園		
所在地	広島県安芸郡府中町浜田1丁目6番7号 (電話)		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3493200079-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年11月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

府中みどり園は理念を実践していくことに力を入れている。「自分が暮らしたい場所づくり」という理念を日々の入居者様のケアの中に、会議に、委員会に様々な場面で理念を意識した取り組みをチームとして行っている。また、外出支援も理念にちなんだ取り組みの一つで、行きたい時に行きたい場所に個別にお連れしている。コロナの最中でも感染対策をとりながら、「うちへ帰ろう」というご自宅に帰るといふ外出の取り組みを行ってきた。また、地域密着型であり、小学校、地域のお寺、同じ府中町の他のグループホームとの交流も多く、入居者様と地域が離れないよう、意識して生活を楽しむことを大切にされたグループホームづくりをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

管理者と職員は理念を共有して実践に繋げている。理念の中身は職員が感じたこと、行いたいことなどを入居者本位で考えまとめたものになっている。今後も内容については追加や変更などを検討している。地域とは、外出支援などを通じて積極的に繋がりをもっている。町内会に加入し、地域の中で行えることを検討し、祭りの開催、災害時の避難場所を提供するなど、実践している。人材育成に関しても、各種研修会への参加、個別面談、内部委員会への参加などで、個々のスキルアップを図っている。職場の風土にしても職員間のコミュニケーションがとりやすい環境となっている。利用者のケアとしては「自分事」としてケアを捉え、実践している。行事などイベントも行い、利用者を楽しみを提供している。

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全体研修で定期的に理念についての研修をし、理念について考える機会を作っている。その都度、理念を念頭において取り組み話し合いを行っている。ユニットの目標も理念に基づいて作成し取り組んでいる。	法人の理念が掲げてあり、パンフレットに掲載してある。事業所として「個別ケアプロジェクト」という、チームを編成し、事業所目標、ユニット目標、職員目標などを作成、共有できる場面がある。そのチームで作成した「理念説明書」は、理念を浸透させるために活用している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の小学校へ挨拶運動や近くのコンビニにお連れしたり、施設のイベントに地域の方に参加いただいたり、地域のお寺の子ども食堂に入居者様と参加したり、お寺の掃除に参加したりしている。	事業所として地域と積極的に関わりをもつ方針がある。「地域との敷居をさげる」を方針として、町内会に加入し、町内会行事に参加している。また施設で主催する夏祭りには地域に広く声をかけ、大勢の参加があった。これらの活動を通じお互いの顔の見える関係づくりを推進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	グループホーム連絡会の4ホームが月に1度開催している認知症カフェ椿を認知症を学び、専門職や地域の方と出会う場所としている。また他グループホームとの情報交換の場にもなっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の会議を再開し、入居者様のご家族様にも参加して頂き、意見交換をし、今後の取り組みの参考にしている。	会議参加者は家族、民生委員、町内会、地域包括支援センター、市などとなっている。また、お寺の住職が参加するなど、地域に幅広く声を掛けている。内容は事業所の取り組みを写真付きで紹介するなど、参加者の意見を聴取しやすい工夫を行っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に参加して頂き、事業所の実績、ケアサービスについての取り組みをお伝えしている。重篤な事故に関しては速やかに報告を行うなど、事務関連の報告も行っている。	運営推進会議や普段のやり取りで連携を多く持っている。また、近隣のグループホーム数か所と連絡協議会を結成し、代表事業所として、介護保険事業計画策定に助言し、連携を図っている。市からの意見は、ケア実践に積極的に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修や勉強会を行い、スタッフに周知している。居室、玄関には施錠はせず、離設に気をつけ見守りをしている。毎月リーダー会議では身体拘束が無かったかを確認し、あった場合には当事者との面談などをし、スタッフには自分事として考える様に取り組んでいる。	定期的な研修は年2回、勉強会はその都度行い、身体拘束防止に関する知識の習得や具体的な実践方法を常に検討している。事業所は複合施設の4階となるが、エレベーター、玄関に施錠は行っておらず「鍵に介護はさせない」を方針に創意工夫し実践にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	毎年虐待防止の園内研修を行っている。毎月のリーダー会議でも都度話し合い、虐待防止を図っている。中長期計画では言葉遣いに気を付ける項目を特に取り上げて実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全体研修で学ぶ機会がある。入居相談時には必要であれば成年後見制度の説明をご家族にさせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族あるいはご本人と契約書を読み合わせてその都度疑問点、不安を尋ね説明、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られた際に、何か要望はないかを確認している。面会になかなか来られないご家族には電話にて連絡をして確認している。要望があった場合には介護ソフトに記録しスタッフ間で共有できるようにしている。	利用者からは常日頃、家族からは運営推進会議、電話、FAX、意見箱、SNS、面会時など幅広く窓口を設けて意見を聴く機会をもっている。近日中には家族会を開催する予定で、家族からの意見、要望は運営に反映する工夫を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>随時意見が言える環境ではある。年に1回、代表者との3者面談を行い、職場環境など意見や要望を聞く機会を設けている。</p>	<p>面談時は運営に関することや職員の異動、スキルアップ、処遇のことまで幅広く意見を聞いている。また、管理職と職員間で交換日記を行っており、職員の意見や思いを聞く機会を積極的に設けている。職員が発案した企画などは、ほとんど実行している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の考課面談を行っている。また必要時には随時面談を行い要望にはその都度聞き対応している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>月に1回の園内研修、新人研修、随時研修への推薦や参加の提案などを行いレベルアップを行っている。また日々の業務の中でも意欲が向上するような声かけを行う事を心掛けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>府中町にある4つのグループホームが集まるグループホーム連絡会での情報交換、他法人の運営推進会議への出席、合同で行っている認知症カフェ椿などで交流、情報交換を行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>ご本人の思いを汲み取りながら、話あっている。相談し安心、信頼できる関係作りに努めている。また必要時には職員ミーティングを行いご本人にとって何が良いのか？を話し合い日々の関わりに活かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居見学の時点でご家族の意向、希望の把握、不安な事等に対して話し合うようにしている。入居後も面会時など話し合える時間を持ちコミュニケーションの取れる関係作りを目指している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご本人、ご家族の要望やご意見をしっかりと聞きしている。その際に生活歴や趣味等をお聞きしアセスメントをし、ミーティングで報告、話し合いを行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>出来ることを一緒にし、満足感、安心感、充実感、存在感を持って頂きながら信頼関係をj得ている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族には毎月のご様子のお手紙やピース通信、電話、面会時等で細かいことも含めて報告して、共にご本人を支え合える関係作りをしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>居室面会も再開し、家族様とは飲食を伴わない外出や、自宅へ帰る事もしている。馴染みのお店に買物にお連れしたり、昔よく行った公園や桜の花見などにお連れしている。</p>	<p>利用開始時のアセスメントなどで本人の馴染みの人や場の確認を行っている。行事計画作成時には、それらを加味して計画をたてている。最近では「うちへ帰ろう」という企画を職員発案で実行した。これは利用者全員の自宅に本人と一時的に帰るもので、馴染みの人や場との関係継続支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	季節行事や定期的なイベント行事で各自が活躍できる場を提供している。共に支え合いながら、共に楽しみ、共に暮らす仲間として認めあっている。職員も一緒に楽しみながら、それを支えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グリーフケア(身近な人との死別を経験した人を悲しみから立ち直れるように支援すること)として半年を目途に手紙を送らせてもらっている。近所の家族様とはお会いすればご様子をお聞きしたりしている。新聞を折って持って来て下さる家族様もおられるが、相談や支援までには至っていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族様に以前の暮らしをお聞きしたり、ご本人との会話から、その方が望まれている暮らしが出来るようにしている。行きたい所、食べたい物、やりたい事、やっていた事を一人ひとりの思いに寄り添って支援している。	利用開始前には、聞き取りに加えて自宅などを訪問し生活環境をアセスメントしている。意向の確認では普段の聞き取りに加えて、聞き取った内容でカルタを作成し、職員や利用者で共有する工夫をしている。意向の把握が困難な場合でも生活歴の確認や家族などに聞き取るなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にはご自宅に訪問し、家族様から生活のご様子をお聞きしている。生活歴やアセスメントシートを活用し、これまでの馴染みの暮らしやサービスの経過などを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランに沿って出来る事はして頂き、心身の状態など小さな変化は看護師とも相談し、スタッフ間で情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成時には、ユニット会議でスタッフから意見を聞き、モニタリングをし、ナースとケア会議をし、アセスメントを作成し、プランを作成している。家族様とナース、担当者を交えた担当者会議を開催し介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画書の原案を家族、関係者が集まる担当者会議で検討している。介護計画書は目標が設定してあり、前向きな表現となっている。モニタリングも適切な期間で実施している。いずれも、担当者だけではなく家族、看護師などの意見を反映している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録や生活状況記録を日々記録し、ヒヤリハット、事故、その他特に注意する事例に関してはその都度職員間で情報を共有している。毎朝、夕と申し送りも行い、1日を振り返り、ユニットミーティングではケアの見直しなどの話し合いも行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>急な病院受診や、物品購入など、家族様が出来ない時はスタッフが代わりに行っている。必ず家族様には報告をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>毎日の買い物と一緒に連れしたり、馴染みのお店にお連れしたりしている。近所のコンビニにはお好きな物を買に行かれ楽しんで頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>施設のホームドクターの週に1回往診がある。その他歯医者、皮膚科の往診、ご自身のかかりつけ医の受診希望があればその都度行かれる様に支援している。かかりつけ医の受診は家族様にお願いしている。急変があれば近隣の病院に行き、その都度家族様には報告連絡をしている。</p>	<p>かかりつけ医の選択は本人、家族が行っている。事業所に看護師の配置があり、普段の体調観察や病院などの窓口となって連携を図っている。専門医などの受診移動支援では個別事情を勘案しながら、その都度支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日中は看護師が常駐している為、細かな変化を報告し、相談や対応が出来る。夜間の特変時にも連絡がとれる体制になっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>看護師が主に病院との情報交換をし、ユニットスタッフ、ご家族様に連絡し情報を共有している。退院時には家族様より依頼があればスタッフが送迎出来る様になっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>看取りについて、スタッフ、看護師と話し合いをしたうえで、ご家族様の意向を確認し、看取りのケアプランを作成し、出来る限りの支援をしている。</p>	<p>本人が大事にしていることなどをアセスメントし、看取り時のケアを実践している。また看取り後はデスカンファレンス（死亡退院後に開催し、利用者の経過や関わりなどを振り返るカンファレンス）を必ず行い、今後に活かしている。看取りケア時、デスカンファレンス時とも事業所職員だけではなく、本人にゆかりのある関係者も出席している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時には看護師にすぐに連絡をし、対応してもらっている。事故対策等マニュアルも設置し対応の仕方を確認できるようにしている。応急手当の訓練などは最近は行っていない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>防災委員が月に1回委員会で話し合ったことをユニット会議で報告をしている。防災訓練は必ず1回は体験をし、地域の方と一緒に訓練を行い、協力できる体制を築いている。緊急時には職員全員に防災メールが届くようになっている。スタッフ全員に防災ポーチを作るように指導している。</p>	<p>防災委員会を設置し、災害時または日常で行えることなどを決定している。地域との協力体制では町内会と協定書を交わし、備蓄食の保存、事業所が災害時の地域の避難場所なる事柄などを取り決めている。事業所にはハザードマップが貼ってあり、職員が気づいた災害危険場所を付箋で追加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩としての尊敬の念をもって接している。丁寧な言葉づかいで接し、トイレの声かけや、入浴の着替え時にはタオルを掛けるなどして、プライバシーを守るようにしている。言葉かけの悪い職員にはその都度注意し、自己振り返りシートを活用し、自分自身の対応を振り返るようにしている。	倫理綱領があり利用者と向かい合う基本的な姿勢を事業所内で周知している。実践では「振り返りシート」というチェックシートを活用して、職員一人ひとり、声掛けや対応を管理者と確認している。気づきがあれば、場面に応じて職員同士で声掛けができる環境となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に声かけをし、コミュニケーションを取り、ご本人がやりたい事出来る事は実現できるように支援している。起床時など衣類の好みを聞いたり、朝食などパンかご飯かをお聞きしてお出ししている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々にあった1日の生活をして頂ける様に支援している。寝たい時はその方のペースに合わせて職員都合にならない様に支援している。行きたい所ややりたいことの希望があれば支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時には何が着たいかをお聞きしている。女性の方にはお化粧品のお手伝いをしたり、男性の髭剃りなど整容に関してのお手伝いもしている。散髪希望者には散髪をして頂いたり、毛染めがしたい方には訪問美容室に来てもらったり、職員が同行している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の好きな物を把握し、誕生日には好きな物を食べられる様に心掛けている。食事作りや片付けなど、できる事を一緒にしている。おやつ作りも参加してもらい、楽しんで頂いている。食事のペースもその方に合わせている。	食事は3食、ユニットごとに利用者と調理している。食事を楽しむ支援としては、「いただきます部会」を結成している。「食事を通じてその人を知る」をテーマに、利用者のリクエスト食を作る、個別メニューを作るなどの意見を出し実践している。	

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	水分量、食事量は生活状況記録に随時記 録し、スタッフ間で共有している。水分 摂取の少ない方には摂取するように促し ている。食事の形態も本人の状態に合わ せ、ミキサー食や食べやすい大きさに カットして提供している。パンなど手に 持てるものを持って食べて頂くなど実践 している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	朝夕の口腔ケアは必ずしている。一人で 出来ない方はスタッフが介助して仕上げ 磨きなどしている。義歯のある方は夜間 に預り消毒をしている。歯科往診を定期 的にして頂いて、口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	生活状況記録に排泄記録をし、一人ひと りの排泄パターンを把握し、なるべくト イレで排泄できるように支援している。 尿量などで随時パットの大きさを変更し たり、布パンツで過ごせる方は布パンツ にしている。	生活状況記録で排泄パターンを確認して いる。生活状況記録の記入項目は、水分 摂取量、食事量、服薬状況など関連する 項目となっている。「すっきり委員会」 を月に1度開催し、便秘にならないケア について検討し、実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝は牛乳を飲んで頂き、水分を摂取して 頂くようにしている。食事作りに野菜を 多く取り入れる様に努めている。テレビ 体操の出来る方には声かけをして運動を 促しているが、積極的に運動されていな い。便秘の方にはその方の状態にあった 下剤の処方など看護師と相談しながら 行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	週に2回を目処に体調の良い日に入浴を して頂いている。嫌がられる時は人を変 えたり、無理強いせずに日を変えて気持 ちよく入浴してもらっている。その方の 状態に合わせて、シャワー浴、足浴、清拭 で対応。好みの温度や、洗い方、湯につ かる時間は本人の好みに合わせている。 皮膚の状態で石鹸の使用できない方もい る。	浴室は毎日稼働している。利用者の希望 などで回数の上限はなく、入浴が行える ように支援している。保清について検討 する「すっきり委員会」を通じて、入浴 が楽しめる内容も随時検討している。 「お風呂まつり」「湯かげんはいいん 会」などのイベントを行い利用者の楽し みに繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の寝たい時、眠たい時に居室でゆっくり休める様に支援している。週に1回はシーツを洗濯し、毎日居室の空調(温度・湿度)などの調整を行い、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各自の薬は個人ファイルにて確認できるようになっており、服薬状況が変わると看護師から報告があり、ファイルの差し替えもあり、情報共有している。服薬の方法もその方の状態に合わせた形態でしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴からその方の趣味や好きだった事のお話をしたり、好きな物が食べられるように支援している。買い物や、外出、散歩、カラオケ、洗濯干し、洗濯量みなど、出来る事を無理強いせずにして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	人ごみの多い場所はさけ、近所の公園や桜の花見、紅葉、海を見に出かけ、その方の心に響くような外出を心掛けている。家族様と1時間なら外出出来るようになり、近所のコンビニに好きな物を買に行かれる様に支援している。	日常の外出は事業所として積極的に支援している。アセスメントや日常の会話から、利用者の希望を把握し外出計画を立てている。外出を通じて利用者の普段とは違う新たな一面を確認でき、日常の支援に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは事務所に預けているが、ご本人の欲しい物、いる物は一緒に買い物に行き、支払いが出来る方にはお財布を渡して支払いをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(えんどう豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族と電話で話したいと希望があれば、スタッフが電話をかけてお話しをしてもらっている。最近はあまり言われる方がいなくなった。字の書ける方が母の日に娘様への感謝の気持ちを書いて面会時に見て頂いたり、メッセージカードなど持って来られた際には見て頂ける様に支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が転倒されない様に机や椅子、ソファを配置している。毎日共用部は掃除をし、こまめな換気をしている。室温、湿度、遮光などに気をつけ過ごしやすいように努めている。リビングには季節の花を飾ったり、季節感のある飾り付けをしたり、ベランダには野菜や花を植えて過ごしやすいようにしている。	共用空間は明るく過ごしやすくするために整理整頓をしている。「集いの空間」をテーマで共用空間作りを行っている。利用者一人ひとりの生活リズムを大事にしており、食事をする場所は必ずしも共用空間に限っていない。対面キッチンがあり、調理を行いながら見守りが行える環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご自身が居たい場所、好きな場所で過ごせる様にしている。お互いの意志の疎通は難しくなっているが顔なじみの方とソファで話が出来る様に支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の馴染みのある家具や衣類を持って来て頂いて、自宅と変わらない雰囲気でも過ごせるように配慮している。家族様の写真などを良く見える場所に飾って居心地よく過ごせる様にしている。ご本人様の過ごしやすいように家具やベッドを配置している。	プライバシーが確保できる構造になっている。馴染みのものを持ち込めるように声掛けを行うなど支援している。ベッドは備品となっているが、希望や状態と照らし合わせ、畳への変更などの工夫も行っている。また夜間の転倒防止で足元灯などを活用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレには手摺があり、本人の自立支援を見守りながらしている。ベッドの位置、高さはご本人が使いやすい様に設置し安全な環境を作っている。		

V アウトカム項目(えんどう豆) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ユニット会議や全体会議での研修でスタッフと理念について話し合いの場があり、スタッフ自身が理念を意識しやすいような仕組み作りがある事により、日々の入居者様の生活についてスタッフが家の暮らしと同じような生活が送れるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	少しずつコロナ前の様に関わりが持てる様になってきている。例えば、地域のお寺で行われる子ども食堂の手伝いや、小学校の挨拶運動に参加し、子どもや地域の方との交流の場がある。その他にもスーパーやコンビニなどでも地域の方との交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	月に1回、地域の方を対象にした認知症カフェを開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2023年5月からみどり園に地域の方や家族様に参加して頂き、2ヶ月に1回開催をしている。会議の中で行事、事故、待機者情報などの報告を行い、出席者から意見を頂いている。その意見をスタッフに伝え共有する様にしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	管理者が中心となって市町担当の方との連絡をとっている。GH連絡会主催の茶のみ処榊の講義内容で役場の職員の話や消防署職員を招き話をしてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回程全スタッフを対象とした研修がされている。更に月に1度のリーダー会議でも現状の確認を行っている。安全で豊かな暮らしの為、スタッフ同士で話し合い、個別に対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体研修と認知症ケア勉強会で、高齢者虐待についての研修があり、月に1度のリーダー会議でも虐待が起きていないかの振り返りを行い、虐待が発生しないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全体研修で学ぶ機会がある。また入居相談を管理者が受ける時に、相談に来られた方に説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約をする際には、家族様に不明な点が無かったかの確認及び、不安に思われている事等を聞き、その場で答えられる事についてはお答えをするが難しい場合は、後日伝える様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様が面会に来られた時などにはしっかりと家族様と話し信頼関係を築ける様に心掛けていると共に、家族様からの要望や意見があった時にはどのスタッフにも伝わるように申し送りをし、反映できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に数回、スタッフとの面談の場があるのでそこでスタッフから出た意見をなるべく実現出来るようにしている。面談だけでなく、日々気付いた事などは、その都度上司に報告、連絡、相談を行い、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1度は施設長とスタッフ一人一人が面談する場を設けており、そこでスタッフからの意見を聞き、改善できる所は改善をしている。それに加え、スタッフが受けたいと思う外部研修等があればなるべく参加出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人スタッフが入职した時には必ずチューターを設置し、チューターが中心となって教える仕組みがある。チューターだけでなく、他スタッフにも新人の教育状況が分かるようにチェックシート等の書類も整えてある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナの状況により、交流が難しい状態もあったが、徐々に緩和してきている。今後は、同地域のGHで交換研修も実施していく予定。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	同施設を利用されている場合はユニットスタッフもその方に会いに行き話をして関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には必ず、家族様と面談を行い、家族様が不安に思われている事・困っておられる事をお聞きしている。入居時だけでなく、その後もこまめに連絡をとり関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様、家族様からお聞きした内容を基に、介護計画書を作成し、その内容に沿って日々の関りを持つようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	全ての事をスタッフがしてしまうのではなく、暮らしの中で入居者様にもして頂ける事はなるべく一緒に行うようにしている。例えば、洗濯を干す、畳む。料理を作り、お皿に盛る。部屋の掃除をする。買物に出かける等々。そのような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様が面会に来られた時等に入居者様のご様子等を伝えて、一緒に入居者様の生活がより良いものになるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みのお店にお連れしたり、家族様との時間を作るなどしている。コロナの感染状況に応じて面会が難しい時には、家族様と電話で話をして頂くなどの対応をして関係が途切れないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係が築けている入居者様同士が過ごせるように環境を整えてなるべく孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	手紙のやり取りをして下さる家族様がおられたり、来園して下さる家族様もおられる。相談や支援については実施出来ていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりのニーズに合わせて関わりを持っているが、本人様の自分でしたいという思いを尊重する為に、スタッフの声かけや関わりに注意し、日々関わりを持っている。自分で思いを伝える事が難しい方については、本人様の立場になって関わりを持つように心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にもお聞きするが、入居後も本人様や家族様から話をお聞きしてこれまでの生活を出来るだけ継続出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様その日その日をどう過ごしたのかを把握し、寄り添いながら過ごして頂ける様になっている。体調などの変化があった時には、看護師とも連携して対応している。		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケア会議を行い、本人様、家族様、スタッフの意見を出し合い、その方の課題やニーズを把握し、一人ひとりに合わせた介護計画を作成するようにしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活状況記録(食事、排泄、口腔ケア、バイタル、水分量が記入できるもの)と介護記録(PC入力)を日々入力し、情報共有を図り、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>定期受診は家族様に対応をして頂いているが、急な受診が必要な場合で家族様が対応が難しい場合はスタッフが対応をしている。スタッフが対応した場合は受診後に家族様へ連絡し状況の報告を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>昔よく行かれていたお店(スーパー)になるべくお買い物にお連れしたり、地域で行われる行事に参加して頂ける様に支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>内科に関しては、嘱託医が行っている。ただし、かかりつけ医があり、本人様や家族様が希望された時はなるべくその思いに添える様に家族様と話をしている。基本的には家族様が受診対応だが、難しい場合に限りスタッフがお連れする事もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常で変化があった時などはすぐに看護師に連絡をして対応をしている。夜間に関しても普段の状況と違う場合は看護師に電話連絡をして対応出来る体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナになってからは入院中に面会をする事が難しいため、家族様や病院の看護師に連絡を取り本人様の状況確認を行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、ケアプラン更新時等に終末期に関しての話をさせて頂いている。終末期が近づいて来た時は再度話し合いの場を設け、家族様のお気持ちを話して頂いたりしている。その内容などを含めてユニット内で話をしその方が最期までその人らしく過ごして頂ける様に支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	各階にマニュアルが設置されている。その他に地域の消防署に来てもらい救急法を学ぶ機会もあり、対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	各ユニットの防災委員会を中心にそれぞれのユニットで防災についての情報共有を行っている。施設全体で災害マニュアルが作られており、内容の把握をしていると共に、避難訓練も定期的にお行っている。		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心を傷つけない様に常に言葉遣いには気を付けているが、時々言葉が崩れてしまっている事もある。スタッフ同士で注意をするなどして気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	受け答えが出来る方については、日々自分で選択して頂ける様に支援をしている。自分で言葉を発することが難しい方についても本人様の表情や仕草を見ながら自己決定出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の生活の場である事を常に意識し、せかしたりせず本人様のペースを大切にして過ごして頂ける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪の毛が伸びて来られたら散髪をされたり、お風呂上りや洗顔時には顔にクリームをつける等、身だしなみやおしゃれが出来るようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	広告を一緒に見たりして、「今日は何が食べたいですか?」とお聞きしたりして献立を決めたりしている。調理の場面では、入居者様それぞれが出来る事をして頂ける様に支援をしている。野菜の皮むき、野菜のカット、炒め物をして頂くなどその方に合わせて一緒に行う様に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の食べる量を把握し、その方に合わせた量の提供を行っている。体重の変化があった場合などは看護師に報告をしている。水分量についてもその方に合わせた量で提供するようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後ではなくその方に合わせた口腔ケアを実施している。義歯がある方はなるべく夜間は預かり洗浄液につけさせて頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄間隔を把握し、自分でトイレに行かれる方でもトイレに行かれない時間が長い時などは、自尊心を傷つけない様な声かけを行っている。声かけ以外にも、本人様の表情や仕草も観察しなるべくトイレで排泄して頂ける様に支援をしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>グループホームでは毎日3食、食事を作っているため、なるべく薬ではなく食事改善出来るように工夫をしたり、日中体操をするなどしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入居者様の中には寝る前に入りたいと希望される方もおられるが現時点では実施出来ていない。夕方入りたいという方については、スタッフ同士で話をしなるべくは入れる様に心掛けている。入浴アセスメントを作成し、どのスタッフも情報共有出来るように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>その方がゆっくり出来る場所（ソファ、ベッド、椅子）で休んで頂ける様にしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>各ユニットにはお薬情報のファイルが設置されており、いつでもどんな薬を服用されているのかを確認する事が出来るようにしている。服用方法についても、錠剤のままでは服用が難しい方は看護師に報告し粉碎して頂くなど個別の対応を取っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>今までされて来られた事をなるべく継続出来るように支援をしている。気分転換が出来るように、ベランダや園の周りの散歩、ドライブなどにもお連れしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>1対1で園の周辺の散歩は頻繁にお連れしている。日々の会話の中で「行ってみたい」とか昔よく行かれていた所などにお連れしている。家族様も一緒に行きたいと言われた時には一緒に行ける様に支援をしている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>基本的には預かり金という形で事務所に入居者様のお金を預かり管理をしている。必要に応じて出してもらい、入居者様ご自身の買物をして頂くなどしている。中には家族様に承諾を頂き、居室で個別にお財布を持たれている方もおられる。</p>		

自己評価	外部評価	項目(そら豆)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様の中には自身の携帯電話を持たれている方もおられるので、ご自身で電話を掛けられる事もある。年賀状など、園に届いた場合は本人様にお渡しをしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、季節の飾りつけをしたりしている他、日々太陽の光が眩しい時はカーテンをしたり、テレビの音、エアコンの温度調節など常に気を付けている。関わりをする中で、戸棚を閉める時に大きな音が出てしまったり、スタッフ同士の話し声が大きくなっている事もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	関係の築けている入居者様同士がそれぞれのお部屋に入り話をする事が出来る空間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される時は、昔から使っておられる物をなるべく持って来て頂く様に説明をさせて頂いている。入居者様がお部屋でゆっくり出来る様に家族様の写真や使い慣れた物を置くようにしている。また、部屋の掃除などで物を動かした場合も元の位置に戻す様に注意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所が分かりやすいように手作りの案内板を設置する事で、自分でトイレに行く事が出来ている。ただし、トイレの扉についている「お手洗い」の表示が入居者様の目線から考えると少し高めに設置してあるので改善する必要がある。		

V アウトカム項目(そら豆) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム府中みどり園

作成日 令和5年12月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議は行い、その場での意見集約なども行っているが、それをすべての家族様に反映できていない。	運営推進会議に参加していない方にも運営状況をお知らせする。	2か月に1度の議事録配布を全員のご家族にしていく。	1か月以内
2	6	コロナの3年間のご家族との関わりがそれ以前より希薄になっていた。	ご家族との関係性を深める。	リーダーとご家族は話が出来ているが、面会に来られるご家族にスタッフが日頃の関わりのお話が出るように来られた時の会話をするように進める。	1か月以内
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。